

□ラボツアー

並木明夫

企画運営担当（東京大学）

今回のバーチャルリアリティ学会第10回記念大会では、VRに関連する学際的で幅広い技術をご紹介できるように、多様なVRシステムと関連するセンサやアクチュエータの技術を含むラボツアーを企画いたしました。

具体的には、館・川上研究室の「光学迷彩」「テレサ2」、原島・苗村研究室の「Lumisight Tableにおける卓上インタフェース」「Strino」「Graphic Shadow Wall」「LIFLETとカメラアレイ」、廣瀬・広田・谷川研究室の「実世界指向バーチャルリアリティ」、中村・山根研究室の「ミメティックコミュニケーションによる人間とロボットの仮想格闘技」、先端メカトロニクス研究室の「静電ロボティクス&メカトロニクス」、システム第3研究室の「皮膚感覚のセンシングとディスプレイ」、石川・並木・小室研究室の「高速マニピュレーション」「KHROS PROJECTOR」の各研究をご紹介して頂きました。

当日は、予想を上回る参加者数があり、大変な盛況がありました。どの展示も技術内容が優れているだけでなく、直感的にも非常に興味深いものであり、VR技術の新たな魅力や、新しい可能性を感じさせるものであったと思います。

最後になりますが、多忙な中をご協力頂いた研究室の先生方と学生方、大会長の館先生をはじめとする大会実行委員の皆様方、ツアー会場に足を運んで頂いた参加者の皆様方に、心よりお礼を申し上げます。



ラボツアーの様子

■会場担当より

梶本裕之

会場担当（東京大学）

会場担当として、各発表、展示、特別講演、懇親会の各会場手配を行いました。今年は全会場が大学構内のため例年に比べ色々とお楽しみをさせていただきました。ただ全会場が異なる担当窓口と独自ルールを持っているという大学的な事情から、2004年暮れからの半年ほどは申請書を書くのが仕事になりました。

半年前頃から大学構内の工事が影響し始めました。まず会場となる建物の工事が学会期間までに終わらず、このため企業展示の荷物搬入にエレベータを使えないことが分かりました。また他の建物の工事によって追い出された事務室が、次々と予約していた空き部屋に引っ越してきてしまいました。大学はいくらでも部屋がありそうな印象ですが、そのような事情から場所の選択肢が極端に減り、実際にはぎりぎりでした。

今回会場として最後まで残った大きな課題は、企業展示に人を集める方法です。企業展示と口頭発表会場が別の建物になりますので中々足を運ばなくなります。お茶菓子や無線LANを用意してみましたが大きな効果はありませんでした（特に無線LANが魅力ある集客方法にならなくなってきたことには驚きました）。当初は口頭発表会場を分離して企業展示の建物でも行うという案もあったのですが、今回は口頭発表会場が集中しているという利便性を重視しました。

実際に学会が始まってしまえば各会場には担当者が居るので会場担当の特別な仕事はなくなります。朝早起きして会場の鍵を開けるくらいでんびりと過ごさせて貰いました。各会場担当の方、およびその下で精力的に働いてくれた学生アルバイトの方に感謝いたします。

■出版担当より

関口大陸

出版担当（東京大学）

今回の大会の予稿集は、前回大会に引き続き、紙の抄録集とCD-ROMに納められた予稿という形態をとりました。抄録集やCD-ROMのフォーマットやデザインなどに関しても、すでに前回の大会の際にすばらしいものが出